

奄美の風たよじ

発行・編集：奄美自然体験活動推進協議会

秋号 no. 1
VOL. 2
2000. 11. 1
A N C ; News Letter

『サキシマフヨウ』の花

大和村(大和一大棚間旧道)

2000. 10. 21撮影

秋は紅葉の季節といえます。
奄美諸島の木々は、殆どが常緑性の植物なので本土のような紅葉は少ないのですが、所々紅く色づく葉や枯れ葉など、葉の色にも微妙な変化がみられます。

秋のはじまりを知らせてくれる植物として「フヨウ」の花があります。陽のあたる低地や山地では「フヨウ」の花が満開です。車を走らせますと道路沿いに、可憐な淡いピンク色の花が秋風に涼しそうに揺れているのを見かけます。また、この時期森へでかけますと、「ピクィーツ」と鳴きながら上空を『サシバ』が悠々と飛んでいる姿をよく見かけます。近くの山からも鳴き声がよく聞こえてきます。

日中の暑さはまだまだですが、朝夕涼しくなりました。南の島にも秋の気配がただよう今日この頃です。



お知らせ

第1回「やせいのいきもの絵画展」開催！！

期間：平成12年12月9日（土）～平成13年1月31日（水）

奄美諸島には、奄美にしか生息しない珍しい「いきもの」がたくさんいます。奄美の豊かな自然が特異なせいぶつを育てているのです。知っているものから知らないものまで、大きさも姿形も異なるさまざまな生きものがたくさん存在していること、私たちの身近には素晴らしい自然があるということを感じて自然や生きものに興味・関心をもってもらうために、当協議会及び奄美野生生物保護センターでは、小・中・高校生を対象に上記期間中絵画展を開催します。そこで、奄美諸島にはどんな生きものがすんでいるのか調べて、好きな生きもの、鳥や昆虫、花など野生の生きものを題材にした絵を募集しています。作品の応募については次のとおりです。

◇応募作品： 画用紙B4サイズ、パステル・水彩・油絵等

◇応募締切り： 平成12年11月24日（金）

◇副賞： 特選 小学生の部，中高生の部 （各1作品）

入選 小学生の部，中高生の部 （各2作品）

佳作 小学生の部，中高生の部 （各3作品）

◇入選発表： 12月上旬（主催者から直接学校又は本人へ通知）

県環境保護課から「第56回全国野鳥保護のつどい」開催のお知らせ

毎年5月の愛鳥週間に行われている「全国野鳥保護のつどい」は、野鳥及び自然とのふれあいを通じて、自然に生きる全ての生命の尊さを学び、鳥獣保護及び自然保護思想を高揚させることにより、自然とともに生きる心を育むことを目的に、昭和36年に農林省と（財）日本鳥類保護連盟との共催でスタートしました。昭和47年からは環境庁、（財）日本鳥類保護連盟、都道府県（開催地）の主催で、これまで常陸宮殿下及び妃殿下のご臨席を仰いで実施されています。平成14年は鹿児島県で開催されることになり、大島郡笠利町黒潮文化の郷・アマミパーク（仮称）を中心に予定しています。

全国のみなさんをはじめ、奄美の方々に奄美の野鳥を知って頂けると共に奄美の野鳥をとおして奄美の自然に興味をもって頂けるよい機会と思います。

是非、ご参加ください。

◇開催場所： 大島郡笠利町「黒潮文化の郷・アマミパーク（仮称）」

◇開催時期： 平成14年5月

◇主催： 環境庁，（財）日本鳥類保護連盟，鹿児島県

協議会活動報告



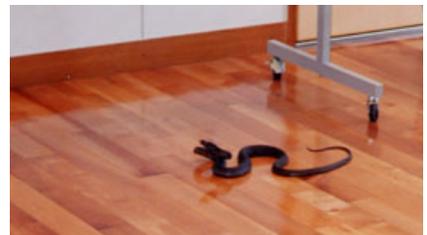
奄美野生生物保護センターとの共催で、下記の行事を開催しました。

◆『ハブ講演会』 実物のハブに参加者驚く！！ 2000. 8. 19(土)14:00～15:20 対象：小学生以上

⇒奄美自然ふれあい行事として、東京大学医科学研究所奄美病害動物研究施設講師「服部正策」先生を講師に迎え、ハブについての講演会を開催しました。講演内容は、奄美にハブが生息する理由や生態などをはじめ、奄美の野生生物には固有種が多い理由も話されました。ハブは山・海岸・畑・道路・庭・家のどこにでも生息するということやピット器官(赤外線センサー)で温度を感知すること、ハブの腹は鱗状になっており鱗が絨毛のような動きをして前へ進むことなど話されました。また、ハブの牙は咬む際に垂直にむいているだけではなく、斜めにも傾くため捕獲時(頭部を持つ時)は注意しなければならないなど興味深い話をされました。

最後に実際に研究所で飼育している徳之島産の黒ハブをだしてピット器官のはたらく様子を観察しました。実物のハブをみた参加者たちからの驚きの声で会場がわきました。

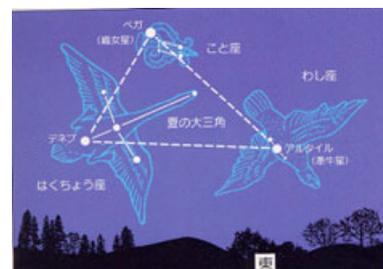
講話後、参加者からの質疑応答の時間もあり、「ハブが鳴くと聞いたのですが、本当ですか?」という質問などユニークな質問もたくさんありました。猛毒ハブと恐れられていますが、ハブがいたことによって、今まで人が森に『侵入』することを防ぎ、森の自然が守られたのかもしれない。



◆『星空観察会』 夏の夜空を彩る星たちinフォレストホリス
2000. 8. 19(土)19:30～21:30 対象:小・中学生



⇒ハブ講演会と同様に奄美自然ふれあい行事として、奄美野鳥の会の「川口和範」さんを講師に、奄美フォレストホリスから、夏の夜空を彩る星座の観察を楽しみました。この日は少し薄曇りの空でしたが、夏の星座をはじめ天の川も観ることができました。観察会では、まず夏の大三角形を探すことから始めました。夏の三角形とは、こと座のベガ(0等星)、わし座のアルタイル(1等星)、はくちょう座のデネブ(1等星)の3個の明るい星を線で結んだ直角三角形のことです。3つの星の中で、アルタイルは彦星、そしてベガは織姫星と呼ばれ、1年に1度カササギが大きな橋を作って渡れるようにするそうです。みなさんもご存じの七夕のお話です。このカササギの橋ははくちょう座の一部で、はくちょう座付近にみえる薄曇りのようなものが天の川です。



そして、夏の星座の代表格のさそり座についてギリシャ神話を紹介しながら説明をされました。さそり座の真中(心臓部)には赤く輝く星アンタレス(1等星)があります。この星は赤色巨星で、もうすぐ爆発するかもしれない星だそうです。

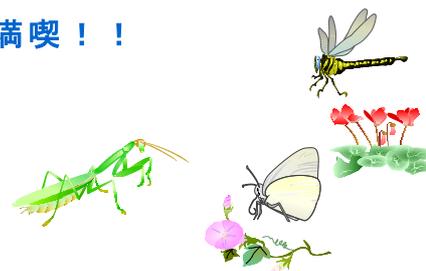


光のない静かな山の中で、自然の音をBGMに夜空をみやげているうちに、いつしかギリシャ神話の世界へ引き込まれていきました。



◆『昆虫・植物観察会』 固有種もみた。大自然を満喫！！
2000. 8. 26(土)10:00～14:00 対象:小・中学生

⇒奄美大島で一番高い山「湯湾岳」周辺を歩きながら昆虫や植物を観察し、昆虫や植物との



出会いをとおして奄美の自然の素晴らしさを感じてもらえたら、と昆虫・植物観察会を開催しました。

講師の「前田芳之」さん(瀬戸内町文化財保護委員)の説明を聞きながら、参加した子供たちは保護者と一緒に湯湾岳→奄美フォレストポリス→マテリアの滝→奄美フォレストポリスというコースで、動植物の探索を楽しみました。

湯湾岳には希少種が多く、この日はアマミフユイチゴやミヤビカンアオイなどの固有の植物も観察することができました。また、溪流や池ではタイワンウチワヤンマやアマミルリumontンボなど様々なトンボを観ることができました。

参加された方から「珍しい植物や昆虫など、この観察会をとおして身近に素晴らしい自然があり、そこにはたくさんの野生の生きものがすんでいることを知ることができました。楽しい観察会でした」との感想を聞き、嬉しいかぎりでした。



私たちの身近にいる生きものでも知らないものが多く、また、なかなか見かける機会が少なくなっています。これからも協議会では少しでも自然の素晴らしさを体感していただけるような自然体験活動をいろいろ考えて実施していきたいと思えます。また、「こんな自然体験活動を実施してみてもは？」など、楽しく自然にふれあう活動案がありましたらどうぞ当協議会事務局までご意見をください。

なお、今後は活動(開催)場所も広げていく予定です。

□ 研修報告

環境庁自然保護局沖縄地区自然保護事務所、奄美自然保護官事務所(奄美野生生物保護センター内)の推薦で、去る9月27日~30日(3泊4日)山梨県清里での「平成12年度環境庁自然解説指導者研修会(入門研修)」に参加させていただきました。研修は、(1)体験学習法の講義及び実習を通して利用者が自然解説を楽しみ理解するプロセスを学ぶ(2)自然解説活動の講義及び実習を通して自然解説プログラムの構造を理解する(3)自然解説プログラム作成実習を通

時事問題

全国初の本格移入種駆除 マングース駆除事業はじまる>

今、移入種による生態系への影響の問題がクローズアップされています。ここ奄美大島でも以前から移入種「マングース」が深刻な問題となっていました。そこで、環境庁は全国で初めての生態系保護を目的とした、マングースの本格駆除事業を今年10月より名瀬市、龍郷町、大和村、住用村の森林地帯を中心に開始しました。連日、テレビや新聞などのマスコミが取りあげ話題となっています。移入種とは、本来生息していなかった地域へ、人間を介して意図的・非意図的に持ち込まれて野生化し、自然繁殖するに至った一群の生物のことで、外国から持ち込まれたという意味から帰化動物や外来種とも呼ばれます。また、外国に限らずある生態系に入り込んできたという意味から「侵入種」という言い方もあります。そもそも、奄美に生息するマングースは、1979年頃に猛毒のハブを撲滅する救世主として持ち込まれました。しかし、夜行性のハブと昼活動するマングースでは出会う可能性は低く、補食することが殆どないということがわかってきました。マングースの胃内容物を分析する調査では、ハブは殆ど確認されず、アカヒゲやアマミトゲネズミ、バーバートカゲなどが確認されました。また、他の調査ではマングースの糞から天然記念物であるアマミノクロウサギやケナガネズミの体毛が確認されたとの報告があり、奄美の希少な野生生物を補食し、生態系に大きく影響を与えていることがわかってきました。ハブを退治するために人間が持ち込んだマングースが、ハブを捕まえず農作物を食い荒らし、奄美の希少動物を危機に追い込むといった哀しい結果となりました。環境庁奄美自然保護官事務所の西村保護官は「当初40頭ほどのマングースが、現在では5千～1万頭にまで増え、農作物のみならず希少な野生生物にまで危害を加え、生態系への影響が懸念されています。島という閉ざされた環境に他から生きものを持ち込むことの恐ろしさを認識してほしい。早急にマングースを駆除できるようにがんばりたい。3年後あたりから効果がでてくるのではないか」とのことでした。また、「全国でいろいろな移入種(ヤギやブラックバス等)が問題とされていますが、奄美での取り組みがよい教訓になってもらえればと思っています」など移入種対策について話していただきました。

マングースだけではなく、ペットとして飼っている動物も野生化して問題となっています。今は大きな問題になっていなくても人間の安易な気持ちで放たれる動物が近い将来、私たちの身近な自然を脅威に陥れる可能性があるということを、私たちも考えなければならないと思いました。

◆平成12年9月30日大島新聞より

◆平成12年10月16日南海新聞より

◆自然保護10月号(No. 450)より

身近な生きもの情報

アマミノクロウサギやアマミヤマシギ、
アマミトゲネズミに出会った夜！

10月13日金曜日「満月の夜」、奄美野生生物保護センターの西村保護官と研究のために来島している中村さんと河内さんの4名で住用村の森へでかけました。日といい、曜日といい、別の意味でもワクワク、ドキドキしながら期待に胸をふくらませて出発しました。目的地入口に20:40頃到着。いよいよ森の中へと入りました。はじめての夜の森に緊張が高まり、自然と肩に力がはいりました。どこから出でくるのか検討もつかないためあちらこちらと視点が定まらず、「あっ、ヤマシギ」と言われてもなかなか確認することができませんでした。だんだん確認することができるようになりました。静かな森の中をゆっくりと車を走らせていくと、林道に出でいたアマミヤマシギが車の音とライトに驚き、バタバタとあわてて飛び立つ姿を5～6羽ほど見かけました。同じくアマミノクロウサギも林道にでてきており、草むらへ逃げ込む後ろ姿を一瞬ですが見ることはできました。また、草むらから警戒音を発してこちらの様子をうかがっているアマミノクロウサギもいました。ずんぐりむっくり、まん丸と太っている体つきで、とても可愛らしいものでした。この日満月で明るいせいかアマミノクロウサギは5羽しか目撃することができませんでした。また、林道にはアマミノクロウサギの糞もたくさん発見しました。そして、帰りの途中奄美フォレストポリス近くで滅多に観ることができないアマミトゲネズミ(1匹)に出会いました。道路端にひょっこりでてきましたが、あわてて草むらへぴょんぴょん跳ねながら逃げていきました。トゲネズミはこのジャンプ力をいかして天敵ハブから身を守る、名ジャンパーとして知られています。

この日生きた化石といわれるアマミノクロウサギを生で見ることができ、感動しましたと同時に確実に数は減ってきているとはいえ森にすんでいることを実感しました。また、森の中からは他の生きものの鳴き声や気配が感じられ、森にはたくさんの生きものがいることを感じました。次は、是非車から降りて、このコースを歩きたいと思います。「め」であるきながら、夜の森を感じたいと思います。

【 この日出会った生きものたち 】

(報告:協議会事務局畑島)



アマミヤマシギ



アマミノクロウサギ



アマミトゲネズミ

◆奄美大島情報（寄せられた情報の一部です）

秋に見られる野生生物

【 サキシマフヨウ 】 アオイ科

分布：九州（福江島・甌島）以南

低地から山地の伐採跡地や林道沿いに多い落葉または半常緑低木。果実には星状毛を密生させ、葉は5浅裂または5角形。花は淡紅白色または殆ど白色。日本各地で栽培され、本州（伊豆・紀伊半島）や九州の一部で野生化しているものもあり、若い茎や葉、花柄で区別できる。



【 リュウキュウツワブキ 】 キク科

分布：本州（太平洋岸は福島県，日本海岸は石川県）以南海岸～低地の日当たりのよい路傍に生える常緑の多年生草本。若葉の頃は全体に淡褐色の綿毛が密生し、葉身は内側に巻き込み、花茎は高さ30～75cm，頭花は径4～6cmで舌状花は黄色。和名は艶（つや）ブキがなまったもの。若い葉柄を煮て食べる。奄美ではよく野菜などといっしょに煮て食する。

【 アマミヤマシギ 】 シギ科（方言名シーギャ）

分布：奄美大島，加計呂麻島，徳之島，沖永良部島
全長36cm前後。ヤマシギによく似ているがやや大きい。額は褐色で体はオリーブ色がかった茶色などの点で多少違いが認められる。雌雄同色。主食はミミズ。主に早朝，夕方から夜間に活動し，昼間は林の中で静かにしていることが多い。繁殖期は雄が縄張りを主張するため夕方鳴きながら飛びまわる。1991年絶滅危惧種に指定された。



【 サシバ 】 タカ目タカ科（方言名タハ，ホイクサ）

分布：本州北部以南

全長47～51cm。翼開長103～115cmもあり，頭から体の上面は茶褐色でのどに一本の縦線がある。腹には横縞があるが，幼鳥では褐色の縦斑になっている。本土では夏鳥である。秋に大群で南下し，奄美では冬鳥としているが，この時期でも「ピッキュー」と鳴きながら上空を飛んでいる姿をよく見かける。



※ 右の写真は、リュウキュウハグロトソポです。
第1号で紹介しましたが、写真掲載
ができませんでしたのでここで紹介
します。



🗨️ 伝 言 板

1. お 礼

笠利町役場企画財政課さま、「生きものの情報」を頂き、ありがとうございました！！これからもよろしくお願いいたします。

2. お 願 い

- (1)大島以外の情報が不足しております。各地域のいきもの情報がありましたら、協議会事務局までお寄せくださいますようお願いいたします。
- (2)次号より一地域ずつ、各地域の紹介をしたいと考えています。そこで、協議会担当のみなさまに、地域の紹介（自然散策コースなど）をお願いする予定でおります。協議会担当のみなさまも大変お忙しいとは思いますが、誠に恐縮ですが、ご依頼します際はどうぞ宜しくお願いいたします。

編集後記

朝夕肌寒くなり、だいぶ秋らしくなってきました。
ニュースレターも第2号発行となりました。8月から11月までには協議会も奄美野生生物保護センターと共に開催した行事の報告やお知らせなど、掲載記事が増えました。文才がないものですから、どのように文章表現をしたらよいかと頭を悩ませながらの構成でした。もっと前から・・・、日頃から・・・、感じたことをメモしておけば・・・などなど、後悔ばかりです。拙い文ではありますが、どうぞこれからもおつきあいください。

編集・発行：奄美自然体験活動推進協議会事務局

- 〒894-3192
鹿児島県大島郡大和村大和浜100
大和村役場 企画課
TEL: 0997-57-2111
- (連絡・書類等送付先)
〒894-3104
鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551
奄美野生生物保護センター内
TEL: 0997-55-8620
FAX: 0997-55-8621